

軽種馬生産技術総合研修センター

マンスリー レポート2

軽種馬生産技術総合研修センター
Center for Equine Breeding Technology

研修センターで実施した獣医診療技術研修で、牧場関係者の方々にも興味を持ってもらえる内容のものの一つを紹介します。

米国をはじめ諸外国では、サラブレッドの売買にあたり、四肢のレントゲン画像など、獣医師の検査所見がその馬の情報の一部として重要なものとなっています。そして市場においても、四肢のレントゲン、喉の内視鏡検査所見などが「レポジトリー（貯蔵庫）」に提示されるようになってきました。国内においても、平成18年から各地の市場で「レポジトリー」が開設されるようになり、多くの獣医学検査情報が集められ、購買を決める情報の一つとして利用されるようになってきました。

そこで平成19年2月2日、米国ケンタッキー州のハグヤード馬診療所のロジャーソン獣医師を講師としてお招きし、「市場上場馬の獣医学的検査における臨床獣医師の役割」と題し、主に獣医師を対象とした研修会を開催しました。

「レントゲン写真に異常所見がみられても、それは競走馬の将来を決めるほんの一部の要素でしかない。」「我々の診療所では3名の外科専門の獣医師がレントゲンを見て、それぞれで点数評価しているが、点数の低い馬に行うアドバイスは、低い金額で取引すべきであろう、といった内容のことである。」「異常と思われる所見はさまざまであるが、そのほとんどの所見は、症状や予後とは結びつかない。」などの話を伺うことができました。



北海道市場のレポジトリー

その後もレントゲン写真を撮影する技術を習得するために、ロジャーソン獣医師には、平成19年7月、20年2月に来日して頂き、撮影したその場で画像を見ることが出来るDR(デジタルレントゲン)を用いて、実際に撮影する研修を行い、獣医師の撮影技術もたいへん向上してきました。また、レントゲン写真の判読についての講演もして頂きましたが、各地の市場でも、せり購買者等からレントゲンのアドバイスを求められる機会も増え、必要に迫られることから、判読の技術も向上しました。

一方、判読・アドバイスをするにあたり、それぞれの異常所見がどのくらいの頻度で見られるのか、症状とは結びつくのか、競走成績に対するリスクはどのくらいあるのか、などのデータが必要になり、そのための調査も実施しています。「研修センター」では、市場上場者からの了解を得ているレントゲン画像をレポジトリーデータとして集積しています。数人の獣医師で、画像の判読、競走成績との関連性も含め、多くの獣医師に、あるいは牧場の方々や、サラブレッド産業にかかわる多くの関係者にも役立つ情報になるよう、検討を加えております。



実技研修
平成20年2月7日

球節のレントゲン撮影。真横からの方向は……馬体の真横ではない。スティックを使って説明